

たがわのタガメ



東北経済産業局長 田川 和幸

私には、残念ながら趣味だと言って人様にお話できるようなものはない。道楽と言えるほど時間とお金をつぎ込んでいるものもなく、おそらく無趣味に近いと思う。さらに子育て真っ最中であり、息子と遊ぶのが休日の私の係である。でもこれが、新しい体験や発見があることも多くて楽しかったりする。

例えば、私は子供のころあまり虫取りはやらなかったが、昆虫好きの息子に付き合っ、家の近くの公園から、去年は武田勝頼の山梨・新府城跡周辺の雑木林、今年は故郷・長崎県の平戸市まで昆虫採集に行った。新府城のときはカブトムシ、クワガタをとる泊まりがけイベントに参加したのだが、私自身、夜や早朝の雑木林など入ったことはなく、ライトに押し寄せる虫々や雑木林の生々しいにおいなど、強烈である。樹液にカブトムシ、クワガタ等々、集まっているのを見たときにはやっぱり感激ものであった。



息子と採取した「タガメ」の標本

虫のエサやりも私の係。カブトムシのエサはスイカだったが、今は昆虫ゼリーである。タガメやカマキリは、生きたエサしか喰わない肉食で、田んぼや原っぱの虫では最強らしい。タガメには生きた金魚をあげていたが、金魚らがかわいそうなので、冷凍ワカサギをあげたら、すぐ死んでしまった。案外弱いのである。ライオンは絶滅危惧種だけれども、エサのシマウマの数は増えているそうだ。恐竜大絶滅のときに最後まで生き残ったのは、最強のティラノザウルスではなく雑食で賢い小型の恐竜だったらしい。生態系の頂点にいる生き物が必ずしも強くて生き残るわけではないのは、人間社会にとっても示唆的である。

いまは単身赴任中なので、仙台での休日は、掃除、洗濯のほかは、本を読んだり、音楽を聴いたり、日本酒を楽しんだり、とりためたテレビ番組を見たりと、ありふれたものである。それでも折角東北に来たのだから、できるだけ東北を味わい、体験し、少しでも東北が理解できればと思っている。

まず、東北にゆかりのある本をできるだけ読もうと思っている。手始めに小説では山岡荘八の「伊達政宗」を少し前に読み終わった。勿論創作の部分もあるうが、現在につながる東北の地域性の成り立ちを理解するのに役立っている。また、伊達政宗公などが世界の動きと日本の関係をどのように考えていたのかなど、興味をそそられた。

日本酒の楽しみも外せない。東北各地を回ると、おいしいお酒が多い。ほんとうにおいしいと思う。お米と水がおいしく、作り手の努力もあってのことと思う。家の冷蔵庫は、いまやお酒を保管する機械である。つつい飲み過ぎるのか、体重が増えていくのが心配である。